

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	吉本和弘 目黒将史	2024年3月18 日 10:30-11:00	1275 教室	<p>テーマ： 地域文化コースにおける卒業論文（専門演習）・地域課題解決研究ルーブリック作成のための検討会</p> <p>実施目的： 2023年度は地域文化コースの完成年度であった。初めてコースにおいて、卒業論文（専門演習）・地域課題解決研究が執筆された。これまで国際文化学科の卒業論文ルーブリックは存在したが、地域文化コースのDPに基づいた新たなルーブリックはなく、その作成が求められていたことを受けて、特に地域課題解決研究について、2023年度の実践例を分析するところから始め、地域文化コースDPに沿った科目ルーブリックの作成を目指して内容の検討を行った。2024年度に実際に指定教科において導入するための研修であった。</p> <p>キーワード：科目ルーブリック、卒業論文（専門演習）、地域課題解決研究</p> <p>実施内容： <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度のゼミにおける実践例を踏まえた報告会を行った。 実践報告1：馬本勉教授（報告15分＋質疑5分） 実践報告2：岡田高嘉教授（報告15分＋質疑5分） 実践報告3：中石ゆうこ准教授（報告15分＋質疑5分） 全体討論（30分） ・報告会を踏まえ、2024年度の実践につなげていくこととした。 </p>
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	吉本和弘	2024年3月18 日 11:00-11:30	1275 教室	<p>テーマ： 地域文化コースの科研費獲得のための研修会として、コース教員による科研研究課題の紹介</p> <p>実施目的： すでに科研費によって実施した研究課題をお互いに紹介し合うことで、お互いの研究について知り、同時に科研費獲得のノウハウやコツ、研究における経験などを共有することによって、コース全体としての科研費獲得率の向上を目指す。</p> <p>キーワード：科研費による研究課題</p> <p>実施内容： 過去の科研費獲得の経緯と研究課題内容の紹介（報告15分＋質疑5分）</p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース (情報分野) (経営情報学部 経営情報学科)	折本寿子 宇野 健 富田哲治	2023 年 8月28日～31日	ひろぎんホール ディングス本社 ビル(4F ホール) Hiromalab (ひろしまハイビル)	テーマ：「地域協働演習」における情報技術を活用した地域課題解決の取り組み 実施目的：情報技術を活用した地域課題解決の解決策を提案するためメソッドを理解し、チームでアイデア創出・ビジネスプラン作成の過程を体験することで、コースでの学びへの動機づけを高める。 キーワード：中山間地域、IT・デジタル技術、チーム協働 実施内容： 「地域協働演習」において、地域産業コース情報分野は「中山間地域の抱える課題に対し、IT・デジタルの知識・スキルを活用した課題解決」に取り組むためのプログラムを地元企業（NTT データ中国、ひろぎんHD）との連携により提供した。本学広島キャンパスの複数のコース・分野に所属する学生11名と広島市立大学の学生30名が混合する8チームを構成し、アイデア創出・ビジネスプラン作成を協働した。各チームの学生は、事前のインプット情報から中山間地域の課題を把握し、アイデア発散・収束のプロセスを通じて解決策の提案を進めた。各グループにはメンターが付き、必要に応じて相談ができる体制をとりつつ、課題解決のために提供するサービスの価値・ユーザー体験を踏まえたビジネスモデルの具体化を行った。最終日に発表会を開催し、各グループが検討した課題解決のためのサービスの共有、講師等によるフィードバックを行った。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を軸としたルーブリックを作成し、本プログラムを通じた学生の取り組み状況に対してメンターによる評価、および学生自身による自己評価を実施した。
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース (人間文化学部 健康科学科)	鈴木 麻希 鍛島 秀明 神田 雅子 神原知佐子 古田 歩 松本 茜 松本 拓也 山岡 雅子	5月17日 6月28日 7月19日 9月13日 10月18日 11月15日 12月20日 1月17日 2月21日 3月15日	オンライン会議 もしくは 1343 試食室	テーマ：健康科学コースにおける課題探究型地域創生人材ルーブリックの活用の検討 実施目的：本年度は、健康科学コースにおける課題探究型地域創生人材ルーブリックの活用を検討する。本コースの学生に健康科学コースの学生として求められる人材育目標の到達点を意識してもらうとともに、各学生の自己評価により、経年の成長度を可視化し、学修の改善や期初面談や研究室での学生への指導等に活用することを念頭に置き、全学共通の課題探究型地域創生人材ルーブリックをもとに、健康科学コースの開講科目について、本コースの人材育成目標に重点をおいた課題探究型地域創生人材ルーブリックを作成する。 キーワード：人材育目標、ルーブリック、学生の自己評価 実施内容： ・座学、グループワーク、学生実験、学外実習など、授業形態に合わせて、ルーブリックに記載する評価項目を検討した。 ・全学共通の課題探究型地域創生人材ルーブリックをもとに、本コースの人材育成目標に重点をおいた課題探究型地域創生人材ルーブリックを作成した。令和6年度から本コースのコア・ユニット（運動・生体、食、健康）で22科目のルーブリックを運用することになった。

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
生物資源科学部 地域資源開発学科	甲村浩之 萩田信二郎	令和6年3月 6日開催	Zoomによるオンライン審議、 第一会議室等	<p>テーマ：地域資源開発学科の進路についての情報共有とキャリア教育の実践</p> <p>実施目的：地域資源開発学科では今年度初めて卒業生を送り出す。新学科の就職先、進学先、取得資格等の情報共有を密に行うことで今後の学生指導、カリキュラムの改善を進める。</p> <p>キーワード：就職、進学、資格</p> <p>実施内容： 対象：地域資源開発学科教員 方法：教学課にも協力いただいて情報を提示した。上記に関し、より深い内容を各教員から提供し（情報の扱いには注意し）、1～4年時の単位取得、学生本人の取り組みなどの情報を交換した。今後の学科での学生教育、指導に活かしていく。また、これまで学科内で行ったキャリア教育（資格取得等）の事例もわかる範囲で共有した。</p>
	山本幸広 藤田景子 村田和賀代 甲村浩之	通年 毎月第2水曜 2限 他	Zoomによるオンライン審議、 第一会議室、フィールドC等	<p>テーマ：国際異文化農業体験研修の在り方の検討と実践</p> <p>実施目的：ローカルとグローバル双方を学ぶ当学科の同科目について、今年度は2年生ほぼ全員に対して実施できた。これをより充実させるために、フィールド科学実習Ⅰの科目や他科目とどのように連動させていくかを検討していく</p> <p>キーワード：国際異文化、実習、カリキュラム</p> <p>実施内容： 対象：地域資源開発学科教員 方法：①2年間通した科目であるが、「Ⅰ・Ⅱ」に分けて1年ごとに評価を行うこととした。 ②国際異文化農業体験研修Ⅱの必修・選択について、WGでは選択科目に変更することを決定した。理由は以下の通り。 ・入学志願者数が減る可能性（研修に費用がかかりすぎる）。 ・旅行代金15万円が払える学生のみになってしまう。 ・実習経費がこの先も維持できるのか不明。 ・基本は海外で研修のため、色々な事情のある学生の把握や、国内研修への変更条件など、判断や対応が難しい場合もある ・海外研修を希望していない学生が参加すると、該当学生自身が意欲のないままでの参加となったり、研修中に全体の雰囲気が悪くなったりする。 ③ 科目名の変更を検討する。（候補）異文化研修Ⅰ・Ⅱ</p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	松崎秀紀	通年 毎月第2水曜 2限	対面会議，およ びZoomによる オンライン会議	<p>テーマ： 学生に卒業研究を早期に意識させる方法の検討</p> <p>実施目的： 生命科学コースでは3,4年次に卒業研究および地域課題解決研究を行う。それに向けて、2年次の2月までに、卒業研究室配属の希望を提出させ、配属先を決定している。学生の研究室及び研究テーマ選択の参考になるよう、1年生・2年生に対して、生命科学研究の面白さと研究室活動の具体例をわかりやすく伝える方法を教員間で議論、検討した。</p> <p>キーワード： 卒業研究、課題発見、教育力向上</p> <p>実施内容： <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究、地域課題解決研究を学生に早くから意識させるために、1,2年生向けに行ってきた2つのセミナー（生命環境科学基礎セミナー、生命科学セミナー）の内容を練り直した。 ・1年生向けの基礎セミナーでは、生命科学研究の面白さを学生に伝えるというコンセプトのもと、これまで具体的な卒業研究についてはそれほど言及してこなかった。今年度は、このセミナーを含め、1,2年生の講義・実習の内容が具体的に卒業研究にどう結び付くのかを明示するようにした。 ・2年生向けの生命科学セミナーでは、これまで、各教員の研究テーマを平易に説明し、卒業研究への意識づけを行ってきた。これに加え、本年度は、各教員の研究室に学生を訪問させ、具体的な研究テーマについて学生と教員と一緒に議論し、研究をする意味と方法を考えさせ、学生のモチベーションと課題発見力の向上に努めた。 <p>その結果、学生側だけでなく、教員側の教育力向上への意識づけにもつながった。</p> </p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	橋本温	<p>対象日で3-5時 限にかけて授業 を行う。班によ って実施週が異 なる</p> <p>A 班： 10月11日 および 10月25日</p> <p>B 班： 10月4日 および 10月18日</p>	庄原キャンパス 大講義室	<p>テーマ： 環境科学と社会での活躍</p> <p>実施目的： 生命環境科学では、生命と環境が融合した様々な研究内容が行われるとともに社会に活かされている。生命環境科学基礎セミナーでは、生命と環境が関係する様々な面の活きた授業を行っている。本活動では、そのうち環境科学関連で、社会で活躍している公的機関・企業から講師を呼び、より深い理解を行うことを目的とする。</p> <p>キーワード： 行政、企業活動、ディスカッション</p> <p>実施内容： 前置きの後に3、4時限にかけて各講師に講義を行ってもらい、5時限目にグループディスカッションを行う流れで行った。ディスカッションでは、教員・学生が相互にディスカッションを行うことで理解を深めた。生命環境科学基礎セミナー全体での受講数は約100名となるので、機動的に授業を行えるようにA班、B班と分けて、実施した。</p> <p>初日： ・エフピコ：総合的プラスチックメーカー。 ・広島県</p> <p>2日目： ・いであ：環境調査などのコンサルタント企業。 ・環境省</p> <p>FDに関連する事項： *実践的な授業参観(ピアレビュー)科目として、過去に授業公開を実施した。 *「オリエンテーションゼミ」および2年次科目である「環境科学セミナー」等と連携し環境科学版のポートフォリオである「学習の記録」等を記録し、各学生の環境科学への理解を促進すると共に、その教育効果に関する情報を次年度の教育改善に利用している。 *学生の積極的な授業への関与の試みとして、授業中のFormsを利用した質問等の聴取、授業後のアンケートを行い、その情報を次年度の教育改善に利用している。</p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部	◎大下由美 池田ひろみ 大古場良太 助川文子 中村文 (事務) 小嶋雅子 勝尾菜弥	①令和6年3月 7日(木)14時40 分～17時10分 ②第1回:令和5 年7月26日(水) 第2回:令和5年 12月13日(水)	①ハイフレック ス ②主としてオン ライン	<p>テーマ： 学部の教育力の向上を目指して一クォーター制での教育の生かし方</p> <p>実施目的： 保健福祉学部の教職員間が協働する機会を作るとともに、保健福祉学科5コース（看護学コース、理学療法学コース、作業療法学コース、コミュニケーション障害学コース、人間福祉学コース）と助産学専攻科で、クォーター制に移行したことに伴う教育上の利点や課題について、教職員と学生が協働で学び合い、保健福祉学の教育力向上を目指す。</p> <p>キーワード： 課題発見、教育力向上、クォーター制</p> <p>実施内容：</p> <p>①について 対象：保健福祉学部の5コース、1専攻科の教員、職員および学生 日時：令和6年3月7日（木）14時40分～17時10分まで（150分） 形式：ハイフレックス。メインは対面形式。約60名の参加で、事前アンケートの結果を踏まえ、⑤グループに分かれ（グループは、5コース1専攻科、教学課職員の構成員がそれぞれ入る）、相互ディスカッションを行った。 結果：事後アンケートから、参加者相互に学びがあった。アンケートや研修会でのディスカッションから、教員によるクォーター制への評価は低い。コロナ禍の影響や新カリ等への対応に、各教員が取り組んでいることが共有された。以前と同様の教育が維持できている部分とマイナスの影響が出ている部分が、出てきている。そして、学ぶ人主体の教育環境づくりを考えるうえで、今回のクォーター制が、学生の主体的な学びの環境の提供、自由に学べる環境づくりになっているのかを評価し、大学として見直しを検討してほしいという意見も出された。</p> <p>②について 対象：保健福祉学部の5コース、1専攻科の教員、職員およびSA等の学生 内容：各コースや附属診療センター等から依頼があった研修案内を、研修部門委員で審議し、本年度のFDテーマに沿った適切な内容と思われる研修を実施した。 令和5年7月26日(水) 病院前診療(ドクターカー・ドクターヘリ)における医療安全 令和5年12月13日(水) アサーション・トレーニング：コミュニケーションを考えるヒントとして 結果：各テーマの講義にオンラインで参加し、広域医療について、患者さんや家族への直接支援に関する研修となった。</p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	教育課程検討会 青井聡美 菅井敏行 岡田ゆみ 山中道代 上野陽子 沖西紀代子 麻生浩司 中垣和子 土路生明美 澤岡美咲 加利川真理	毎月1回 令和5年 ①4月6日 ②5月8日 ③6月23日 ④7月14日 ⑤9月13日 ⑥10月20日 ⑦11月10日 ⑧12月20日 令和6年 ⑨1月12日 ⑩2月15日 ⑪3月14日	Teams オンライン会議	<p>テーマ：①看護学コース DP ルーブリックの活用とカリキュラムマップの作成 ②学修支援・卒業生アドバイザーの運用 ③国家試験対策</p> <p>実施目的：看護学コース DP ルーブリックと教育内容を多方面から分析を行い、効果的な学修環境の充実にを図る。</p> <p>キーワード： DP ルーブリック 学修支援・卒業生アドバイザー 国家試験対策</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護学コース DP ルーブリックの分析とカリキュラムマップの作成 <ul style="list-style-type: none"> DP ルーブリック学生自己評価結果の集計を行った。卒業時は「対象の生物学的反応」「対象の生活と環境」「地域包括ケアシステムの推進」「専門的探究」のレベルが上昇していた。しかし、「地域包括ケアシステムの推進」の平均点のみが4点台 と他の項目と比較して低い結果であった。 看護学コースカリキュラムマップを作成し、次年度完成に向けてカリキュラムツリーの図式化について検討中である。 学修支援・卒業生アドバイザーの運用 <ul style="list-style-type: none"> 卒業生アドバイザーとして2名の卒業生が活動した。また、学修支援アドバイザーとして延べ43名の学生がSAとして活動した。 国家試験対策 <ol style="list-style-type: none"> ①国家試験対策セミナーおよび国家試験対策通信作成 <ul style="list-style-type: none"> 国家試験対策通信：4月と12月に配信した。 8月に予定した国家試験対策セミナーは中止した。 国家試験後、4年生に国家試験の勉強に関するアンケート調査を実施し、その内容を4月の国家試験対策通信に取り入れる予定。 ②演習室利用等の調整：9月から演習室使用簿を teams 上で管理した。利用学生は13名であった。 ③令和5年度看護師・保健師国家試験自己採点の集計・評価 ⇒ 3月末に実施 ④模試試験結果後の指導方法について検討 <ul style="list-style-type: none"> チューター面談の方法を決定した。7月、10月、1月の国家試験模試後にチューター面談を行い、学修状況を確認し、面談結果を国家試験対策面談シートに記載した。面談シートは教育課程検討会で共有し、気になる学生の支援方法を協議した。 模試試験の必修問題が合格ラインに達していない学生については、過去の模試の設問別結果を分析し学生指導に活かした。

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	実習検討会 渡辺陽子 松森直美 岡田淳子 奥田玲子 池田ひろみ 井上誠 沖西紀代子 俵志江 加利川真理 木場しのぶ 加藤裕子	テーマ I 年 1 回		テーマ： I：実習指導担当者との情報共有と協議：昨年度実習の成果と課題・看護実習教育の質の向上 II：臨地看護実習教育の充実
		令和5年4月21日		実施目的：本学教員と実習指導担当者間で情報共有と協議を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握・共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質向上を図る。
		テーマ II 毎月 1 回	テーマ I オンライン	キーワード： 臨地実習、情報共有、看護教育質向上
		①4月10日 ②5月10日 ③6月13日 ④7月14日 ⑤9月15日 ⑥10月12日 ⑦11月7日 ⑧12月8日 ⑨1月22日 ⑩2月7日 ⑪3月11日	テーマ II Teams オンライン会議	実施内容： テーマ I：実習指導担当者協議会の開催 本学教員と、実習施設の指導担当者との間で合同協議会を開催した。内容は次の通りである。 1. 令和4年度の実習成果と課題を共有した。 2. 令和5年度臨地実習要綱の概要説明を行なった。 3. 「コロナ禍のように学生の教育機会に制限がある場合に備えて一新卒看護師の離職予防のために臨床現場と教育現場でできる支援—」をテーマとして、次の内容について報告し意見交換を行った。 1) コロナ禍での本学の取り組み（カミングホーム、DX教育）について 2) 臨床での新人教育や本学の取り組みに対する意見についての事前アンケートの結果報告 テーマ II： 臨地看護実習教育の充実に向けて設定した以下の内容について、実習検討会メンバーでの毎月1回の会議を行い、実施状況の報告や審議事項について検討しコース内で共有した。 1. 実習指導担当者協議会の企画・運営 令和5年実習指導者協議会の企画・運営を行った。 2. 令和5年度入学生用臨地実習要綱の作成 令和5年度入学生用の臨地実習要綱を作成した。 3. 令和6年度実習計画案の作成 令和6年度看護学コースの臨地実習について、全体の年間実習スケジュールを作成し、実習施設への依頼、調整を行なった。 4. 「看護技術の卒業時到達レベルと経験録」の集計と活用方法の検討 カリキュラム改正後の入学生が4年次生となる令和6年度に集計し、評価を行なうこととする。 5. SNS における個人情報取り扱いの啓発 個人情報取り扱いに関する冊子を学生に配布し、啓発を行った。

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	看護学コース FD 担当 池田ひろみ			テーマ： I：目標・ポリシーに準拠した教育評価の推進に向けたルーブリックの導入および新カリ科目の情報共有 II：教員の研究・教育能力の向上
		テーマ I 令和 5 年 5 月 26 日 5 限		実施目的： 各科目の到達目標の達成に向けた教育方法の検討と刷新、適正な教育評価を目指した取り組みの推進を図る。各教員の研究・教育能力の向上を図る。
		テーマ II 令和 5 年 4 月 27 日 昼休憩 5 月 25 日 昼休憩 6 月 22 日 昼休憩 7 月 27 日 昼休憩 9 月 28 日 昼休憩 10 月 26 日 昼休憩 11 月 30 日 昼休憩 12 月 21 日 昼休憩	Teams オンライン会議	キーワード： 科目ルーブリック 研究活動 地域活動 実施内容： テーマ I：ルーブリック作成のための研修 新カリ科目「統合実習 I」のルーブリック研修に 17 名が参加した。研修後アンケートを実施し、参加動機は、「学修内容の理解のため」「科目担当であり、意見交換によりよりよいものへと発展させるため」などであった。研修後の学び・課題として、「自身が気づけなかった点を考えることができ、考えや理解が広がった」「評価規準の基軸の理解と実習の場で想定される具体的な内容について理解しておく必要がある」「学生の立場になって到達が可能か再検討し、誰が見ても評価可能なものに変えていく必要がある」などがあった。
		令和 6 年 1 月 25 日 昼休憩 2 月 22 日 昼休憩 3 月 28 日 昼休憩		テーマ II ○Dx 教育導入に向けた教育方法・成果の共有 全てランチョンセミナーとして開催した。 5 月 25 日：17 名 担当：渡辺准教授 黒田教授、6 月 22 日：13 名 担当：中垣講師 池田准教授、DX 教育として令和 4 年度に実施した演習・実習の内容の論文文化に向けた情報共有・意見交換を行った。 ○研究に関する意見交換会、地域活動に関する情報共有 全てランチョンセミナーとして以下の内容で開催した。 4 月 27 日：12 名 内容：卒業研究での学生との関わり方、7 月 27 日：12 名 内容：質的データの分析方法-初心者講座- 担当：黒田教授、9 月 28 日：14 名 内容：統計解析の考え方 担当：麻生講師、10 月 26 日：12 名 内容：2 群の平均値を比較するための検出力と 2 群の差の検定 担当：池田准教授、11 月 30 日：8 名 内容：3 群以上の統計検定 担当：池田准教授、12 月 21 日：17 名 内容：よい結果を導く質的分析・質的研究における適切なサンプルサイズ・質的記述的研究とは 担当：黒田教授、1 月 25 日：17 名 内容：統計的手法を用いたデータ解析の動向 担当：菅井教授、2 月 22 日：10 名 内容：日頃の研究活動での疑問点・悩み事の共有、3 月 28 日：19 名 内容：地域支援活動をどのように研究に活かしていくか 担当：渡辺准教授。

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	大古場良太	毎週水曜日 昼休み	Teams オンライン	<p>テーマ：「学生動向の把握と共有」、「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義の形態・方向性を吟味する」、「各教員の研究領域の紹介」</p> <p>実施目的：「学生への指導・支援の一貫化を図る」、「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義形態・方向性の共有および改善を図る」、「最新の研究知見をふまえた専門教育の充実を図る」</p> <p>キーワード： 学生支援、国家試験、教育実践</p> <p>実施内容：</p> <p>(1) 「学生動向の把握と共有」について 新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い対面講義の割合が増加している一方、オンライン講義の併用も引き続き行われていることから各学年チューターを中心に科目担当や学科教員とともに学生の動向を把握した。また、各学生の情報を共有することで指導・支援の一貫化を図った。各学生の状況は毎週のコース会議にてチューターから報告し、配慮が必要な学生については担当教員を中心に詳細な報告・情報共有を行い協議した。また、臨床実習では臨床実習指導者と教員が連携し、学生の実習状況を共有することで円滑な実習を過ごせるよう支援した。</p> <p>(2) 「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義の形態・方向性を吟味する」について 指定規則改正や国家試験出題基準改定の内容に即した実習形態や講義内容にするための専門教育のさらなる充実を図り、講義内容や学生指導のあり方について検討した。コース会議において国家試験模試の結果を共有し、国家試験に向けた講義や個別支援等に活用した。また、月1回程度、各種教授法の実践例紹介などを通して情報共有し、今後の講義を吟味した。さらに、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品の購入・充実化を継続した。</p> <p>(3) 「各教員の教育・研究領域の紹介」について 各教員の教育・研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することを通じ、教育・研究能力の向上を図った。コース会議に合わせて月1回程度、各教員の研究紹介などを実施した。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は、個人情報を含むコース特有の内容についての議論が必要であったため、公開については取り扱う内容によって判断した。</p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法学 コース	助川文子	テーマⅠ コース会議 (毎回) テーマⅡ 年10回 毎月第1・3水曜 12:30-13:00	ハイブリッド (4102 会議室 と Teams)	テーマⅠ：学生支援の検討 テーマⅡ：「国家試験対策、教育と研究領域を主題とした発表」
				実施目的： テーマⅠ：学生の情報共有と指導・援助のコース内のコンセンサスを図る。事例検討 テーマⅡ：各教員の教育課題や研究領域における課題を主題とし、最新の研究エビデンスの共有と研究・教育能力の向上、また国家試験の改訂年度のため、これら情報の共有を図る。
				キーワード： 学生指導、 臨床実習指導、 国家試験指導、 アクティブラーナー、 研究
				実施内容： コース会議：学生情報の共有 ①（4月19日）（織田）4年生チューターによる国家試験前の情報提供 ②（5月17日）（織田）総合臨床実習 ③（6月7日）（今元）これまでの研究紹介と今後の研究について ④（7月19日）（古山）子どもの作業を基盤とした学校作業療法の試み ⑤（8月30日）（助川） 「令和6年版国家試験出題基準について」 ⑥（10月18日）（田中）研究紹介 ⑦（11月15日）（藤巻）「事例からみる作業療法コース要支援学生の特徴」 ⑧（12月20日）（4年チューター）国家試験前の情報提供 ⑨（1月17日）（森）最近の研究について ⑩（2月7日）（1-3年チューター 各10分）学年の学習支援報告

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 コミュニケーション 障害学コース	渡辺真澄 中村 文	令和5年4月 ～令和6年3月 (年6回実施)	Teams 上にて オンラインで 実施	テーマ：年間を通じた学科での教育改善活動を目的とし、併せて研究活動、臨床および地域貢献活動の活性化を図る
				実施目的：教育の質の向上を目的として、各教員が行っている教育活動、臨床および研究、地域における活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。また、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。さらに本活動を通し、教員の研究・臨床能力の向上と研究・臨床活動の活性化を促進させる。
				キーワード：教育の改善、研究・臨床活動情報共有、伝達講習
				実施内容： テーマⅠ 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 ①6月30日（金）（話題提供者：細川 淳嗣） 国家試験対策の状況について 昨年、一昨年度のデータからわかること ②12月22日（金）（話題提供者：津田 哲也） 第48回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会の伝達講習（参加報告） ③2月7日（水）（話題提供者：中村 文） R5年度（2023年度）4年生の就職活動について テーマⅡ 教員が取り組んでいる臨床・研究活動の紹介と議論 ①10月30日（月）（話題提供者：坊岡 峰子） 成人になった彼らからのメッセージ ～発達障害児者を支援する際の視点～ ②11月28日（火）（話題提供者：今川 記恵） 医療現場における費用対効果評価 ③2月28日（水）（話題提供者：小島 理恵子） 口腔交互反復運動と協調運動の発達との関連

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 人間福祉学コース (人間福祉学科)	大下由美	令和5年度 学科・コース全 体研修会 2/21(水) 10:40~12:10	三原キャンパス 内(一部対面実 施を含む)	テーマ： 人間福祉学コースの教育の質の向上にむけて
				実施目的： 卒後教育を含む教育体制づくり
				キーワード： アクティブ・ラーニング、オンライン教授法、ピア・レビュー
				実施内容： 本年度人間福祉学コースでは、以下の3つの活動を行った。 (1) 卒業生等からの意見を踏まえ、コース内の教育について、検討する機会を持つ ①本コースの教育内容等について、卒業生等からの意見を踏まえてコース教育について振り返る機会を持った。クォーター制に伴う授業開講形態の変化について、活かしている点と教員への負担の変化(1クォーターに集中する)があることが共有された。また、専門科目と全学共通科目によって、課題が異なる点も出された。 ②少人数に分かれて、コース教員相互の教育に関する情報共有の機会を持った。授業内容の構成、予習復習などの学習教材の工夫など、情報共有がなされた。 (2) ピア・レビュー 対面授業でのピア・レビュー(公開および参加)を行った。 (3) アクティブ・ラーニングの充実 総合演習Ⅳを活用し、卒業生と教員および在学生のネットワークづくりに取り組んだ。演習Ⅳの中で、卒業生を迎えた就職ガイダンスを組み込み、交流の機会を持った。

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
助産学専攻科	宮下ルリ子 奥山葉子 金川景子	4月 7日 11:30 5月 11日 11:30 6月 6日 10:40 7月 24日 15:00 8月 9日 15:00 8月 22日 16:00 1月 17日 11:30 2月 21日 15:30 3月 8日 16:00 計9回（9～12 月の助産学実習 期間中は除く）	三原キャンパス 4315 研究室	テーマ： 教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み
				実施目的： 学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討を行う。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。
				キーワード： シミュレーション教育
				実施内容： 社会情勢の急激な変化に伴い、複雑化する諸問題への対応が必要となっています。こうした中、助産学専攻科では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしています。教員は専門職としての自律を担保し、また、臨床現場に即した実践能力や教育方法を検討する必要があります。 ① 入学時の学生の習熟度（プレテスト）について（4/7：金川） ② 妊娠・分娩・産褥新生児（各）期タスク・トレーニングの検討（5/11：妊（奥山）・分（金川）・褥新（宮下） ③ 各期シチュエーション・ベースド・トレーニングと客観的臨床能力試験：OSCE（6/6：宮下） ④ シミュレーション教育後の実習での学び方（7/24：奥山） ⑤ シチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討（8/9：宮下） ⑥ シチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討（8/22：金川） ⑦ シチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討（1/17：奥山） ⑧ 各期の客観的臨床能力試験：OSCE と評価の検討①（2/21：妊（奥山）・分（金川）・褥新（宮下） ⑨ 各期の客観的臨床能力試験：OSCE と評価の検討②（3/8 妊（奥山）・分（金川）・褥新（宮下）